
リュリュちゃん日記
あちゃ

暁～小説投稿サイト～ By 肥前のポチ

<http://www.akatsuki-novels.com/>

注意事項

このPDFファイルは「暁く小説投稿サイトく」で掲載中の小説を「暁く小説投稿サイトく」のシステムが自動的にPDF化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「暁く小説投稿サイトく」を運営する肥前のポチに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リユリユちゃん日記

【作者名】

あちゃ

【あらすじ】

皆さん大好きリユリユちゃんのスピンオフ作品です。

リユカの娘であるリユリユが6歳の誕生日から書き始めた日記です。作中の日付が飛ぶことがあります。演出でありリユリユが日記を書いてない訳ではありません。

なお、この作品は二次ファンで掲載されてた作品であり、暁に移行することにより手直しを行う予定です。

更新は遅いですが、皆様気長にお待ちくださいませ。

ソルムンド暦1777年7月6日

私の名前はリュリュ。

今日、6歳の誕生日にお母さんから日記帳を買ったの。

だから今日から日記デビュー♡

教会裏の岩壁の洞窟で宿屋を営んでいるタナさんにケーキを焼いて貰いました。

とっても甘くて美味しいの！

村の皆さんにお祝いをしてもらって、とても嬉しかったです。

夜、寝る前にお父さんの事をお母さんに聞いてみました。

今までお父さんの事はちゃんと教えてもらっていなかったんです。

でも、聞いた事を後悔してます……

だって……話が長いんです！

お母さん……お父さんの事を語り出すと、まるで子供に戻ったみたいになっちゃうの！

「……でね！リュー君はね！……」

私……眠くなっちゃった……

「ちょっと、リュリュ！ アナタのお父さんは凄いのよ！ 聞いて……！」
寝かせてくれません……

お母さんをここまで狂わすお父さんでどんな人だろう……？
会ってみたいなあ……

ソルムンド暦1777年7月7日

私の日課は、パパスお祖父様のお墓掃除です。

毎日、キレイなお花を供える様に心がけてます。

でも、サンタロースの村にはお花が少ないです。

だから本当はいけないんだけど村の外まで摘みに出かける事があります。

今日もオトメユリの花を摘みに村を抜け出しました。

村を出て30分程山を登った所に、オトメユリがいっぱい咲いている場所があります。

でも今日は何時もと違ってたの！

1匹のドラキーが3匹のガスミンク達に襲われてました！

前に凶鑑で読んだ事があります。

飛べなくなったドラキーは、他のモンスターの餌になっちゃうって

……

私は落ちてあった枝を拾い、大声を上げながら振り回し、ガスミンク達を追い払う。

そして傷だらけのドラキーを抱き上げ、ホイミで癒してあげる。

最初は不思議そうな顔をしていたけど、私が乱暴をしないと分かる
と、私に懐いてくれたの！

名前は『ドラきち』って言うんだって。

私の初めてのお友達！

村に帰って、お墓にお花をお供えしてたらお母さんがやって来ました。

お母さんはドラキチを見てすごく驚いていたけど、私がドラキチは優しい良い子だと説明したら分かってくれました。

でも、他の村人さん達には内緒にしなさいって……

「モンスターには、人を襲うモンスターと、襲わないモンスターが居るの。でも、他の人達はリュリュと違って区別が付かないから、全てのモンスターを怖がるのよ。みんなを怖がらせる事は無いでしょ。だから、秘密にしておきなさい」って………
何だか寂しいなあ………

でもドラキチが、私と仲良く出来ればいいって言ってくれたから、元気出ました。

明日からドラキチといっぱい遊ぶんだ！

ソルムンド暦1777年7月8日

朝、お母さんが毒牙のナイフをくれた。

「今後村の外へ出かけるのなら、手ぶらじゃダメよ！」と言って…

…

どうやらバレてみたいのです。

更に紫のターバンと、マントも作ってくれました。

ドラきちと同じ色のマントです。

「これならドラきち君をマントの中に隠して村の中を歩けるでしょとの事。」

うん、お母さん大好き！

絹のローブの上にマントを羽織り、ターバンを巻き付け腰に毒牙のナイフを携帯する。

着替え終わってお母さんに見せたら急に抱き付かれました。

「お父さんの子供の頃にそっくり！！」

すごく嬉しいです。

私、お父さんに似ているみたい。

「アナタのお父さんもね、モンスターとお友達になるのが上手だったのよ」

私、まだ会った事無いけどお父さんの事が大好きになりました。

でも、また長々とお父さんの事を語るお母さんの長話が苦痛です。

因みにお母さんの話では、お父さんの初めてのお友達モンスターは

『ベビーパンサー』だったみたいです。

凶鑑で読んだ事があります。

地獄の殺し屋と呼ばれる『キラパンサー』の子供『ベビーパンサー』は、人には絶対に懐かないそうです。

「わぁ〜！ お父さんって凄いだぁ〜！！」

私、思わず余計な一言を言ってしまいました。

「そ〜なのよ〜！ リュー君てば、ちょ〜凄いのよ〜！！ リュー、今のアナタと同じ6歳の時に『ベビーパンサー』とお友達になったのよ！ ちょ〜凄いでしょ〜！！」
……………長いです。

今日の墓掃除は遅くなっちゃったけど、お祖父様許してくれるかな？

村の人達が私の恰好を見て「可愛い」って言ってくれました。

お母さん風に言うと、ちょ〜嬉しいです。

私は武器屋のおじさん、オリバーさんの所へ行き、毒牙のナイフのお礼をしました。

お母さんに頼まれて取り寄せてくれたようです。

オリバーさんは2歳の息子のデック君をあやししながら店番をします。

去年、奥さんを病気で亡くされて、サンタローズに引っ越して来ました。

オリバーさんは、頭は禿げてて口髭を生やしている見た目は怖い大

柄なおじさんだけど、本当はとても優しい人なんです。

偶に他の町へ仕入れに行く時は、デック君を預かったりします。

村の中ではマントの中に隠れていたドラきちだけど、外に出るからは一緒に暗くなるまで遊びました。

やっぱり友達と遊ぶのって楽しいです。

ソルムンド暦1777年7月9日

今日は一日中雨だったの。

だからお外には出られませんでした。

だから今日はお母さんの事を書こうと思います。

『フレア』私のお母さんの名前です。

娘の私が言うのも何だけど、凄く美人でオッパイが大きいの！

お母さんに抱き締められると、柔らかくて良い匂いがして気持ちいの。

宿屋のタナさんに聞いたんですが、お母さんは私が生まれるずっと前に、大勢の男の人に酷い事をされて以来、男の人に触れる事が出来ないそうです。

でも、お父さんが克服してくれたみたいです。

お父さんって凄いです。

それでもまだ、お父さん以外の男性とは触れる事が出来ないみたい。以前、丘の麓に住むジェックさんの息子さんのゲイツさんが、お母さんに触れてしまいお母さんが半狂乱になった事があります。

触れただけで蹲り震え泣いていたんです。

相当酷い事されたんです！ 許せません！！

でも、何でお父さんは平気なんだろう？

今度聞いてみたいけど、話し長いんだよなあ…

ソルムンド暦1777年7月10日

今日も雨。

もう、やんなっちゃう！

私、長話覚悟でお母さんにお父さんの事を聞いてみました。

お父さんはお母さんが11歳の時にサンタローズに引っ越して来たんだって。

お母さん、最初はパパスお祖父様が好きだったみたいなの。

でも、凄く甘えてくるお父さんの事が好きになっちゃったんだって。よくお母さんに抱き付き、オッパイに顔を埋めていたんだって！

私もよくやるの！ 赤ちゃんみたいって言われるかもしれないけど、お母さん良い匂いがするし柔らかくて気持ちいいの！

でね、お父さんが6歳の時にラインハットへお出かけたきり10年間も行方不明になっちゃたんだって！！

その10年間でお母さんは男の人が怖くなる様な酷い事をされたみたい。

しかも、お父さんも10年間、奴隷として酷い事をされてたらしいの！！

そして、この村で再会をしたみたい。

10年前と同じ優しい瞳で（私も同じ瞳をしてるって言われました。嬉しいです）優しくただいまって言われた時には、お母さんから抱

き付いて泣いていた様です。

お母さんが言うには、お父さんだけは何故か平気だったって……

優しい瞳、優しい声、お父さんを前にしたら昔の辛い記憶を忘れさせてくれたんだって！

お父さんって凄いのね！

もっと凄いのはお母さん。

ここまでの話を、朝から夕方までしてくれたの。

疲れちゃった……

しかも、お父さんとのエッチの思い出まで話してくれました……

普通、そう言うのって子供にしちゃダメだと思うの……

でも、止めても無駄だから……

・
・
・

大人って凄くエッチなんですネ……

恥ずかしかったけど、勉強になっちゃった。

ソルムンド暦1777年7月11日

昨夜大変な事が起きました！

サンタローズとラインハットの関所を結ぶ山道が、土砂崩れで塞がっちゃったの！！

2日間続いた雨が原因だってお母さんが言ってたわ。

サンタローズは毎週ラインハットから食べ物とかを届けて貰っているの。

こういうのをエンジョって言うんだって。

直ぐに食べ物が無くなっちゃう訳じゃないけど、早く通れる様にならないと大変な事になっちゃうんだって！

村からゲイツさんとオリバーさんが土砂を退かす為に出かけて行きました。

ラインハット側からは兵士さん達が頑張ってくれてるみたいだから、心配はないそうです。私にも何か出来る事はないのか、お母さんに聞いたら「私達に出来るのは神様にお祈りをするだけよ」って言われました。

みんなには内緒だけど、私は神様を信じてません。

だって、もし本当に神様が居るのなら、何故お父さんは行方不明なのか……

何故お母さんは酷い事をされたのか……

何故みんなが幸せに暮らせないのか……

本当はいけない事なんだと思います。

神様は信じなきゃいけないんだと思います。

でも……

………私は神様を信じません！

ソルムンド暦1777年7月12日

昨日また大変な事が起きました！

山道の土砂を退かしていた人達がモンスターに襲われて大けがをしちゃったの！

何とか道は通れる様になったのでサンタローズまで帰って来る事が出来たけど、オリバーさんもゲイツさんも兵士の皆さんも大けがをしちゃったの！

しかも、オリバーさんは毒に犯されてキケンな状態なの！

お母さんと私が『ホイミ』で傷を治したけど毒消し草が無いので全然良くならないの……

怪我が軽かった兵士さんがアルカパまで毒消し草を取りに出かけたけど、間に合わないかもしれないってジェックさんが言ってました……

絶対ダメ！！

デック君を残して死んじゃうなんて！！

お母さんは教会でお祈りをしています。

でも、いくらお祈りをしてても毒が勝手に消えるわけない！

だから……私どうしていいのかわからなかったから……

気が付いたらサンタローズの洞窟の中に居ました。

前にジェックさんから洞窟の奥に薬草があるって聞いた事があります。

毒消し草とかもあるかもしれない…

洞窟の中は薄暗くて怖いけど、ドラキチが居てくれたから頑張る事が出来ました。

私は何とか毒消し草を手に入れて、出口を目指そうとしたら、2体のガイコツ兵に阻まれました！

ドラキチがマヌーサを唱えてくれたおかげで、ガイコツ兵の攻撃は当たりにくくなったけど、私達を見逃してはくれないの！

私の毒牙のナイフじゃ槍を振り回すガイコツ兵に近づけず、攻撃をする事が出来ません。

マヌーサの効果が切れそうになった時、私達の後ろから『メラ』が飛んできました。

1体のガイコツ兵が燃え上がり崩れ去っていきます。

後ろを振り返ると、そこには『メタルスライム』が心配そうに私達を見てました。

「あなたが助けてくれたの？」

と、質問をしたんだけど答えることなく、もう1体のガイコツ兵に体当たり！

そのままメタルスライムとガイコツ兵は、洞窟に出来た穴の中へ落ちてしまいました。

お礼を言いそびれちゃったなあ…

何とか無事に帰る事が出来た私は、お母さんに毒消し草を渡ししました。

泥だらけになった私の姿を見たお母さんは、私を抱き締め泣きながら叱りました。

ごめんなさい、お母さん！ でも、どうしてもオリバーさんを助けなかったの！

お母さんに叱られちゃったけど、毒消し草は間に合ったみたいです。ジェックさんは「もう安心だ！」って言ってました。

良かった！

ソルムンド暦1777年7月13日

今日は朝から大変でした。

村の皆さんから、褒められたり、叱られたり、泣かれたり、褒められたり…

無事回復したオリバーさんのお見舞を済まし教会へ戻る途中、お母さんに呼び止められお祖父様のお墓まで一緒に行きました。お墓まで行くと、お母さんは腰を下ろし私を抱き締めます。

そして「アナタのお父さんも6歳の時に、あの洞窟へ一人で入って行ったのよ」って…

一人…って凄い！

私にはドラきちが居てくれた！ 一人じゃきつとムリだった…
でも何でお父さんは一人で入ったのだろうか？

お母さんに聞いたら、幼馴染みの女の子の為だって！

薬師のおじさんを助け、薬草を女の子に渡す為にだって！

お父さん、格好良すぎです。

怒られても、人の為に頑張っちゃうって格好いいよね。

私、お父さんの娘で良かった。

ソルムンド暦1777年7月14日

魔法のお勉強をする事になりました。

私もお母さんも『ホイミ』しか使えません。

毒消し魔法の『キアリー』を使えば、あんなに大変な事にはならなかったはずです。

だから私とお母さんはサンタローズを守る為、魔法のお勉強をする事になりました。

でも、サンタローズには『ホイミ』の魔道書しかありません……

魔法を使える人も私とお母さんだけです……

だから、ここからずっと南に行った所にある『海辺の修道院』へお出かけです。

私初めてサンタローズ以外の所にお出かけします。

サンタローズ以外知らない私は、今からワクワクのドキドキです！私達だけじゃ危ないからラインハットの兵士さんも一緒に来てくれるそうです。

お母さんに「明日は早いから、もう寝なさい」って言われたけど……

……

眠れるかな？

ソルムンド暦1777年7月15日

今日は朝早くからお出かけです！

日がまだ昇る直前……薄明るい中、村の入口でラインハットの兵士さんと待ち合わせです。

ラインハットの兵士さんの名前は『デルコ』さん。

なんと、お父さんの事をよく知っている人みたいです。

道中、お父さんの事を色々聞いちゃいます！

ビックリです！

お父さんはラインハットの救世主なんだって！！

私が生まれるずっと前は、ラインハットは悪い太后様が酷い事をする、とても怖い国だったみたい……

しかも、その悪い太后様って実はモンスターが化けていたらしいの！

でも、お父さんが偽太后をやっつけてラインハットに平和を取り戻したんだって！

お父さん格好いい！！！！

私のお父さんは正義のヒーローよ！

でも、一つ疑問！

そんなに凄い事をしたのに、何であんまり有名じゃないんだろう？

デルコさんに聞いてみました。

「最初はヘンリー兄王陛下と共に、大々的に称えようとしたんだけど……」『めんどくさいからやめて、そう言うの!』って断られました」

お父さんって恥ずかしがりやさんなのかな？

でもお母さんが、

「リユ―君らしいわね。自分の偉業をひけらかさない人なのよ」
益々格好いいです!!

今日は色々聞けたけど、まだ聞きたい事が沢山あるの!
でも、これから野宿の準備をしなければいけないから、また明日にします。

ソルムンド暦1777年7月16日

お出かけ2日目。

今日もお父さんの事をいっばい聞いちゃいました。

お父さんはデルコさんの命の恩人だそうです！

デルコさんとマリソルさん（デルコさんのお姉さん）が何日もまともにご飯を食べてなく、死にそうになっている時に、お父さんが現れてご飯とお風呂と寝る所をくれたんだって！

そして、そんなデルコさん達の状況を見て、怒っちゃったお父さんは、ラインハットの偽太后をやっつけちゃったんだって！！

デルコさんってばお父さんの事を凄く尊敬しちゃってるの！

私も尊敬しちゃう！！

今日、私達は『山賊ウルフ』と言うモンスターに襲われました。

4匹の山賊ウルフは素早く動き私達を攻撃してきます。

でも、デルコさんがあっという間に倒しちゃいました。

デルコさんって強いんですねって言ったたら、

「俺なんかまだまだです。リュカさんなんかは、ラインハットの兵士達が束になっても傷一つ付けられなかったモンスターを一瞬で倒してしまおうんです！ 憧れます！！」

だって！！

強くて、格好良くて、優しく、ともかく凄いお父さん。

でも、そんな完璧な人なんて居るのかな？
きっとお父さんにも欠点ってあるよね。

私、お父さんの全てを知りたいの！

だから聞いちゃった、お父さんの欠点を…そうしたら…

「リュウ君に欠点なんてあるわけじゃない！！ ちょく凄いのよ！ ちょく格好いいのよ！！ ちょく優しいのよ！！！！」

「そうです！！ リュカさんに欠点なんてありません！！ 完璧なんです！！」

って、怒られました。

でも人って、欠点があった方が素敵だと思うんです。

だから、会う事が出来たら自分で探そうと思います。

素敵なお父さんでいてほしいから。

ソルムンド暦1777年7月22日

今日やっと『オラクルベリー』と言う町に着きました。

お母さんとデルコさんだけだったら、もっと早くに着いたのだろうけど……

足手纏いにならない様にしなきゃ!!

オラクルベリーってサンタローズと違って、大きくて夜も明るい町なの。

人もいっぱい住んでて町を歩き交ってます。

不思議な物がいっぱい、色々見回っていたら迷子になっちゃったの。

私、宿屋への道が分からなくて泣きそうになっていたら、私より少し年上の男の子が声をかけてくれて宿屋まで送ってくれたの。

男の子の名前は『ギル』。

キレイな金の瞳に、褐色の肌。

外国の人みたい。

オラクルベリーよりずっとずっと南の『ホザック』って言う国にお家があるんだって。

大きくなったら行ってみたいなあ……

ソルムンド暦1777年7月23日

オラクルベリーを朝早くに出発した為、お昼前には海辺の修道院に着く事が出来ました。

とってもキレイな所で、潮風が心地良いの！

時間が出来たら海で遊ばせてもらおう！

早速中に入って修道長様にご挨拶。

どうやらここにもお父さんの事を知っている人が居ました。

修道長様とシスターの一人アンジェラさんは、私を見て「本当にリユカさんにそっくりですね」って。

お父さんが奴隷状態から逃げ出して、海を漂流していた所を助けてくれたのが、この修道院で、看病してくれたのがアンジェラさんだったみたいです。

私、ここが好きになっちゃいました。

お昼を食べて、さっそく魔法のお勉強です。

お勉強は楽しいです。

でもお母さんは「神父様が生きてらしてるうちに、もっと魔法の勉強しとけば良かった……年取った後だと、憶えるのが大変……」って、言ってたわ！

何で大人になると勉強って大変になるんだろ？

私、とっても楽しいです。

初日のお勉強も終わり、夕飯も済ませ時間があつたのでアンジェラ

さんにお父さんの事を尋ねてみました。
そしたらビックリ！

『ルーラ』って魔法知ってる？

何でも古代の失われた魔法で、遠くの場所まで瞬間移動出来る魔法なの！

でね、その魔法を使えるのって世界でお父さんだけみたい！

しかも、本来は魔法の使用者一人しか瞬間移動出来ない魔法なのに、お父さんが唱えると大勢の人を一瞬に移動させる事が出来るんだって！

凄い凄い凄い！ 何なのお父さんて！？

凄すぎるでしょ！？

いったい何者なんだろう……？

早く会いたいなあ……

ソルムンド暦1777年7月24日

魔法のお勉強2日目。

私、何となくだけどキアリーが分かって来ました。

キアリーを憶える事が出来たら、今度はスカラを憶えようと思っ
ます。

スカラってね、防御力を上げる魔法なの。

この魔法を憶えれば、サンタローズの洞窟で助けてくれたメタルス
ライムさんの様に、体当たりで敵を倒す事が出来ちゃうかも！

私、もっともっと色んな魔法を憶えたいです。

そうすれば色んな人を助ける事が出来ると思います。

そしていつかお父さんを助ける事が出来ればいいなあ……

アンジェラさんが「今日は良い天気だから、午後は海で遊んで来な
さい」って言うてくれたの。

だから私とお母さんは水着に着替えて海でいっぱい遊びました。

モンスターが急に現れるかもしれないからって、デルコさんがずっ
と見張ってくれてたの。

でもデルコさん、周りを見張るところかずっとお母さんを見てたん
ですよ！

エッチですよね！

そしたらお母さんが「コラコラ！ 命の恩人の愛人に見とれちゃダ

メよ！」って！

だけどデルコさんは「リュカさん全てにおいて凄い人ですが、女性の趣味に関しては神の領域です！！ 見とれるなって言われてもムリですよ！」って否定しないのよ！

やっぱり男の人ってオッパイが大きい方が好きなのかな？

私オッパイ大きくなるかな……？

ソルムンド暦1777年7月25日

私、もうキアリーを使える様になりました。

修道長様が「リュリュは魔法を憶えるのが他の子より早いですね」
って褒めてくれました。お母さんが「リュー君の血のおかげでリュ
リュは魔法の天才なのね！」って抱き締めてくれました。

もっと沢山の魔法を憶えて、お父さんの様に沢山の人を救える大人
に私もなりたいです。

だから私、決めたんです！

剣の練習もすることに！

お母さんに言ったら最初は反対されました……

でも、アンジェラさんやデルコさんがお母さんを説得してくれまし
た。

だから今日からデルコさんが私の剣の師匠です。

デルコさん改め、デルコ師匠に銅の剣を貰い基本的な型を習ったら、
今日一日は打ち込みの練習です。

デルコ師匠は「さすがリュカさんの娘さんです。飲み込みが早い」
って驚いてました。

本当かな？

私、遊びで剣を習うつもりはないので本当の事を言ってほしいです。

そう言えばお母さんは、まだキアリーを憶えられないみたいです。

魔道書と睨めっこして「うゝんうゝん」って唸ってました。
お母さんには悪いけど、私は明日からスカラの魔法のお勉強に入ります。

ソルムンド暦1777年7月26日

今日も午前^{スカラ}は魔法のお勉強、午後は剣の練習。

今日はこの修道院にお客さんが来ました。

世界を旅しながら商売をしているエリオットさんです。

それと息子さんのウォリック君です。

ウォリック君は私と同じ6歳。

でも世界を旅してるなんて羨ましいなあ……

私の剣の練習を見ててウォリック君も参加してきました。

やっぱり誰かと一緒に練習すると楽しいですね。

ウォリック君は「女の子なのに結構強いんだね」って褒めてくれました。

今夜はエリオットさんとウォリック君、修道院に泊まっていくみたい。

だからウォリック君に色々聞いちゃいました。

そしたら砂漠の国にある砂で出来たバラの話を教えてくれました。

凄いいよね！ 砂で出来てるんだよ！

私も見てみたいです。

ウォリック君が「大きくなったら俺と一緒に見に行こうよ」って言ってくれました。

そうだったらいいなあ……

その時はお父さんも一緒だと嬉しいなあ……

ソルムンド暦1777年7月27日

今日の朝早くにエリオットさんとウォリック君は次の目的地へ旅立ってしまいました。

大人になったらまた会えるといいなあ…

お母さん、やっとキアリーを憶えました。

私はスカラを憶えたので『ベホイミ』のお勉強中です。

お母さんはホイミとキアリーだけでいいと言っていました。

お勉強、嫌いなのかな？ 楽しいのに……

修道院の3階から南の方を見ると、大きな塔が立ってるの。

アンジェラさんに聞いたら「あそこは神の塔と言って真実を映す鏡が奉られてた所」だそうです。

その話を聞いたデルコさんが、さらに凄い事を教えてくれました。

「リュカさんが偽太后を倒す為、真実を映す鏡を手に入れる為にあの塔を攻略したんです。最上階には神の試練があり、透明で見えない床の先に鏡が奉られてたそうです。でもリュカさんは臆する事もなく、透明な床を歩き、事もなく鏡を手に入れたんです。強い上に勇気もある人なんです」

って、凄くないですか!?

私だったら透明で見えないんじゃ通る勇気はないですよ。

あの塔にはヘンリー兄王様や今のラインハット兵士長のヨシユアさんが一緒に挑んだのに、お父さん以外は怯んでしまい1歩踏み出す

事が出来なかったみたいです。

やっぱりお父さんには欠点なんてないのかもしれない……
す……

ソルムンド暦1777年7月28日

今日が修道院での生活、最終日です。

そんな訳で、今日一日はお遊びの日になりました。

私は……お勉強したかったなあ……

私とお母さんとドラきちとアンジェラさんと一緒に遊びます。

何故デルコさんが仲間はずれかと言うと、

「海で遊ぶので、エッチい目で見ると殿方は接近禁止です！」
って、お母さんが……

お昼はサンドイッチを作って浜辺でお食事。

いつもと違う環境だと美味しく感じます。

午後海で遊びました。

でも急に海からモンスターが出てきた為、お母さんとアンジェラさんは大パニックです。

『オクトリーチ』と『マーマン』です。

私は銅の剣を構えドラきちと一緒にオクトリーチに攻撃をしました。
そしてオクトリーチに剣を突き刺しやっつけました。

でもマーマンの『ルカニ』で守備力が下げられてしまいました！

大きな爪で切り裂かれそうになった瞬間、デルコさんが現れてマーマンを倒してくれました。

やっぱりデルコさんは強いですね。

お母さんとアンジェラさんも怪我はなく一安心です。

でもお母さんはかなり慌ててしまったらしく、小さいビキニの水着からオッパイがこぼれてしまいデルコさんはずっと見続けてました。

デルコさんエッチすぎます！

きっと遠くからずっと見てたんですよ！

お父さんもエッチなのかな？

ソルムンド暦1777年7月29日

今日はとうとう海辺の修道院の皆さんともお別れです。
短い間だったけど凄く素敵な時間でした。

修道長様から魔道書を2冊貰いました。

1冊は回復系の魔道書。

まだベホイミを完全に習得してないので、後はサンタローズに帰ってからお勉強です。

もう1冊は補助魔法の魔道書です。

中には『マホトーン』や『マホカクタ』スカラの上位魔法『スクルト』等が記載されてました。

私自身がもっと魔道鍛錬をして魔法力を上げないと使用できないけど、一生懸命勉強して使いこなせる様に頑張るんだ！！

私、ラッキーです！

夕方前にはオラクルベリーに着いたたんですが、着いて早々ウォリック君に再会できました。

エリオットさんはしばらくオラクルベリーで商売をするみたいです。

だから今度は私の方が先に町を出て行きます。

お母さんに許可を貰って夜のオラクルベリーを探索です。

さすがに子供だけでは危ないので、デルコさんも一緒です。

人気がない町の外れに『オラクル屋』というお店がありました。

中に入ったたら、全然品物が無いんです！

お店の人に何を売っているのか尋ねたら「もう今日で店を畳むんだよ……だから全部売り切っちゃってね……」
とても残念です。

そうしたらね……

「お嬢ちゃんは以前に馬車を値切って買っていった青年に、目がそっくりだ！ よし、お嬢ちゃんにはウチの特製暖簾をプレゼントしよう！」

って、3匹のホイミスライムが連なったオラクル屋の暖簾を貰っちゃった。

でも……使い道が良く分かんない……

ウォリック君は「リュリュの部屋に飾れば可愛いよ」って言ったけど……

物には罪は無いわよね！

だから元オラクル屋のおじさんには、笑顔でお礼をしました。

そう言えば……私とそっくりな目の青年ってお父さんの事かな？
だとしたら嬉しいなあ……

ソルムンド暦1777年8月6日

今日の昼過ぎにやっとサンタローズに着きました。

オラクルベリーと違って静かで落ち着きます。

でも海が無いのは残念です。

デルコさんも「美女の水着姿が拝めないのは残念ですね」って言うてました。

うん！ 男の人はみんなエッチです！

そう思う事にします。

きっとお父さんもエッチです。

だから私が産まれたんです！（そうお母さんが言うてました）

久しぶりにお祖父様のお墓のお掃除をしました。

お母さんと一緒に♡

でも、ずっとお掃除をしてなかったからお祖父様怒っていないか心配になりました。

「パパスお祖父様はそんな事で怒らないわよ」
って、お母さんに言われました。

だから私「お祖父様もお父さんと一緒に優しい人なのね」って……

ウカツでした……

そこから延々3時間……

お母さんの『お父さん話』が続きました。

お父さん……助けて……

ソルムンド暦1777年8月7日

今日の朝、デルコさんはラインハットに帰って行きました。

またすぐに会えるよって言われましたが、それでもやっぱり寂しいです。

私はデルコさんに言われた、剣の練習をちゃんとこなすつもりです。

タナさんは「女の子なんだから、そんな事できなくても……」って、言われましたが、何でも出来た方が便利ですよ！

お父さん褒めてくれるかな？

私は一人で素振りや型の練習をしましたが、何だか強くなっている気がしません。

ウォリック君と一緒に練習した時は、何となく強くなっていく気がしたのに……

だれか練習相手になってくれないかなあ………

ソルムンド暦1777年8月26日

私、どうしても効率的に剣の練習がしたくて…

いけないのを承知で、サンタローズの洞窟に入っちゃいました！（みんなには内緒だよ）

丘の麓にある小川からイカダに乗って洞窟へ…

そんなに奥に行くつもりはありません。

この間助けてくれたメタルスライムさんに会えればいいなあ……と、思ってますが……

でも、私の考えは甘かった様です！

出ましたガイコツ兵！

しかも3体！

1体はドラキチが相手をしてくれましたが、2体が私に攻撃をします。

しかし、練習の成果でしょうか……難無く1体を倒す事が出来ました！

そして、もう1体が私に突撃してきました！

でも、銅の剣でガイコツ兵の槍を受け流し、素早く懐に入って毒牙のナイフでトドメを刺す！

私にも戦えました！

勝利ですよ！ 勝利！！

私とドラキチは良いコンビです！

でも調子に乗るのは良くないので、お洋服を汚す前に帰ります。

そうすればお母さんにバレないと思います。

バレたら怒られます。

怒られるのは……ヤです！

でもまた、コッソリ来よう！

ソルムンド暦1777年9月2日

今日、お母さんとケンカしました。

私も悪いのは分かってます。

でもお母さんも悪いです。

ケンカの原因は私がコッソリ洞窟に入っている事がバレたからです。この点に関してはお母さんの意見は尤もで私は反発するつもりはありません。

私の事を心配して怒ってくれているのだから、むしろ感謝です。

でもバレた理由に私は怒ってます。

お母さん、私の日記を読んでいたんです！

許せません！

人の日記は読んではいけないのです！

例え娘の日記でもダメです。

お母さんは私の心の中を覗く為に日記帳をくれたのでしょうか？

だとしたら最低な人です。

自分の娘でも、安易に心を覗いてはいけません。

もし心の中を知りたいのなら、日記を盗み読むなどというズルをしないで、行動を監視し頻繁に会話をし私の心理を理解しようと、努力するべきです！

手を抜いて娘の心を知ろうなんてダメです！

最後に……

お母さん、もしこの日記を読んでいるのなら言っておきます。
私はお母さんの娘であって、奴隷ではありません。

例え親にでも見られたくない心の中があります。

この日記帳をプレゼントしてくれた時は凄く嬉しかったです。
でももういりません。

この日記帳を使うのはこれで最後です。

貴女を敬愛する娘、リュリュより

サンタローズ、激動の3日間！

△サンタローズ▽

タナSIDE

昼を少し過ぎた頃シスター・フレアが泣きながら私の元にやってきた！

「リュリュが居ないの！ (グスッ) リュリュが…… (グスッ)
昨日ケンカして、日記にもういらなくなって最後だって…… (グスッ)
リュリュがあ……」

シスター・フレアは支離滅裂な事を泣きながら喋る為、何を言っているのか分からない。

「落ち着いてシスター！ ゆっくり順を追って話して……」
ともかく落ち着かせ、話を聞き出す事にする。

・
・
・
どうやらリュリュちゃんが行方不明になってしまった様だ！

シスターが言うには、昨晚……珍しい事にリュリュちゃんと口論をしたらしい。

今朝起きて姿が見えなかったので、村の何処かでいじけて居るのだろうと思い、探し回ったのだが、誰も姿を見ていないと言われ、家に戻り日記を読んだら、そこには、

「最後に……」

お母さん、もしこの日記を読んでいるのなら言っておきます。

私はお母さんの娘であって、奴隷ではありません。

例え親にでも見られたくない心の中があります。

この日記帳をプレゼントしてくれた時は凄く嬉しかったです。

でももういりません。

この日記帳を使うのはこれで最後です。

貴女を敬愛する娘、リュリュより」

と、書き置きの事が書いてありパニックになってしまったらしい

……

「ともかく、村のみんなに知らせて、手分けして探しましょう！

もしかしたら、洞窟内に居るかもしれないし……」

「ふえくん……リュリュ」

リュカが居ればこんな事にならなかったろうに……

まったく！

あの子は何処で何をやってるんだろうね！

タナSIDE END

△サントローズの洞窟▽

オリバーSIDE

何やら大変な事になっちゃった！

俺とゲイツはサンタローズの洞窟を慎重に進んでいる。

あの仲の良い親娘がケンカをするとは……

しかも日記を勝手に読んだ事が発端とは……

リユリユ嬢ちゃんは可愛いからなあ……

変な男に変な事されてないといいのだが……

あの子は俺の命の恩人だ！

絶対助け出さなきゃなんねー！

「なあオリバーさん！ リユリユちゃん、この洞窟には居ないみたいだぞ！」

ゲイツは早く洞窟を出たいらしく、早急に結論を出そうとしている。コイツが俺と一緒に洞窟へ入った理由は一つだ。

シスター・フレアに良い所を見せたかったんだ！

コイツいい年こいて、独身で美人のシスター・フレアに気があるもんだから、彼女の前では率先して洞窟探索に名乗り出たんだ！だが、果てしない程のヘタレの為、モンスター蔓延る洞窟からは逃げ出したいんだ……

「うるせー！ まだ分かんねーだろーが！！ どっか隅っこで小さくなって震えてるかもしれねーだろ！ しっかり探せボケ！」

全く使えねー男だ！

恰好つける為だけに志願すんじゃねーよ！

俺はリユリユ嬢ちゃんの父親に会った事はないが、すげー人物らしい……

あの腐りきったラインハットを救った立役者だって聞く。

このヘタレが頑張った所で、そんな男に惚れているシスターを、落とせる訳ないだろうに！

その後も俺達は洞窟内を隈無く探したが、結局リュリユ嬢ちゃんは居なかった。

仕方なく洞窟から出ると外は既に真っ暗で、今日の搜索は打ち切りとなった。

明日は村の外を重点的に探す予定だ！

オリバーSIDE END

△サンタローズ▽

タナSIDE

今日も朝からリュリユちゃんの搜索だ。

私とオリバー、ジェックとゲイツ親子。

二手に分かれてサンタローズ周辺の森を搜索する……

しかし、あんな真面目で良い子が家出をするなんて信じられない！

オリバーとも話してたんだが、悪いヤツに攫われてないか心配だ！

あの子は天使の様に可愛いから、変な事されちまうだろう……

一刻も早く見つけ出さないと……

「なあ、女将さん……リュリユ嬢ちゃんの父親って、どんな男なんだい？」

オリバーが急にリュカの事を聞いてきた。

「何だい！？リュカの事が気になるのかい？」

「そりゃ、気になるさ！ あれ程の美人だ……俺だって初めて会った時は、デッキの母親になってくれないかと考えもしたからな！」

「そりゃダメだよ！ あの子は男に触る事が出来ないから！」

「んな事は分かってるよ！ でも、男に触れただけで発狂するシスターが、唯一大丈夫な男ってどんなヤツなんだ？」

「リュリユちゃんがマントの中にドラキーを隠しているのは知っているね！」

「当たり前だ！ あんなの隠している内にはいらねー！ マントが膨らんでるじゃねーか！」

「リュカもモンスターと仲良くなる事が出来るんだ！」

「魔物使って事かい？」

「まあ……そうなるが、本人にそう言ったらきっと怒るだろうね。

『使ってなんかいない！ みんな友達だ！』ってさ！」

「モンスターが友達かよ……」

「そう……あの子は分け隔てなく優しい子なんだよ。そんな男さね！」

そう……あの子は優しい子なんだ……

あの子が居れば……

タナSIDE END

△サントローズ▽

フレアSIDE

今日で3日目……

リュリュが私の前から姿を消して3日……

私には祈る事しか出来ない……

リュリュは祈っても意味がないと日記に書いてた。

その通りだと思う……

村が襲われた時も、大勢の男に犯された時も、私は神に祈り続けた

……

だが何も起きなかった。

村は滅ぼされ、私は犯され続けた……

でも私には祈る事しか出来ない……

もう神でも悪魔でも構わない。

リュリュは私の宝なのだ……命よりも大切な……

リュー君に授かった大切な娘なのだ！

だから、誰でもいい……私のリュリュを今すぐ返して！

お願いします！

（バン！！）

教会の扉を力強く開ける音がした。

外は既に夕暮れ時……

入口にはタナさんが笑顔で泣いている。

「シスター！ リュリュちゃんが帰って来たわよ！」

その言葉を聞いて、私は慌てて外に出た！

一心不乱に走り、村の入口へ向かう！

そこには泥だらけのリュリュが……

「リュリュ……！！！」

私はリュリュに飛び付き力の限り抱き締める。

泣きながら抱き締める。

何だかよく分からない……。リュリュが帰ってきて、嬉しくて……。でも帰ってこなかったらと考えると不安で……。でも帰ってきたから安心で……。何だ分からない……。ともかく涙が止まらない。

でもリュリュが私を引き離した。

私はリュリュに嫌われてしまったのか？

日記を勝手に読んでしまったから、嫌われてしまったのか？

私は不安になりリュリュを見つめる。

すると、

「今回の事件で皆さんには沢山ご迷惑をかけたましたが、私は謝りません！ 今回私が勝手に村を出たのは、この日記帳を買う為だからです。前に使っていた日記帳はお母さんに勝手に読まれました！

絶対に許す事は出来ません。だから私は新しい日記帳を買いに行きました！ 自分の日記を、自分の心を守る為です！」

といい、新たに購入した日記帳を掲げ見せつけた。

そして私の側へ来ると「お母さん、ただいま」って言って抱き付いて来ました。

もう私には泣く事しか出来ません！
泣いて、泣いて、泣き尽くして……

本当に良かった……

リュリュが無事帰ってきて……

もう日記は読みません。

懲りました。

でもやっぱりリュリュはリュー君の娘です。

6歳児とは思えない意志の強さです。

私はとても幸せ者の様です。

ソルムンド暦1777年9月5日

今日から新しい日記帳です！

前のはお母さんに返しました。

この日記帳には鍵が付いてます。

2日前にドラきちと二人でアルカパまで買いに行きました。黙って勝手に！

今日の夕方、私はサンタローズに帰り着きました。

私の姿を見つけた大人達は泣きながら怒ってました。

うん。私は愛されてます。

私は村人全員の前で宣言しました。

「今回の事件で皆さんには沢山ご迷惑をかけましたが、私は謝りません！今回私が勝手に村を出たのは、この日記帳を買う為だからです。前に使っていた日記帳はお母さんに勝手に読まれました！絶対に許す事は出来ません。だから私は新しい日記帳を買いに行きました！自分の日記を、自分の心を守る為です！」

皆さん驚いてました。

お母さんはいっぱい泣いてました。

だからお母さんに抱き付き、ただいまって言いました。

そうしたらもっと泣いちゃいました。

タナさんが作ってくれたシチューを、お母さんと二人で食べながら今回の事について語り合いました。

私は勝手に洞窟へ入った事は謝りました。

お母さんも勝手に日記を読んだ事を謝ってくれました。
これで仲直りです。

私はお母さんが大好きです。

ソルムンド暦1777年9月7日

再来週アルカパでお祭りがあります。

先日コッソリとアルカパに言った時に情報をゲットしました！

どういった意味のあるお祭りか分かりませんが、楽しそうです！
行きたいです！！

でも、お母さんは人混み（男性がいっぱい居る所）はダメなので、
連れてってもらえないと思います。

またコッソリ行こうかとも考えましたが、皆さんに迷惑がかかるの
でダメです。

だからお母さんをお願いしました。

そうしたらデルコさんと呼んでくれるそうです。

デルコさんと一緒なら行っても良いと言われました。

とってもとっても楽しみです！

ついでに剣の練習もしてもらおうと思ってます。

私って欲張りですか？

ソルムンド暦1777年9月10日

毎週、エンジョ物資を運んでくれるラインハットの兵士さんが、今日から違う人になりました。

前はブラムスさんと言う人でしたが、今日からはロイドさんと言う人になりました。

ブラムスさんは、もうお年で引退だそうです。

優しいお爺さんでした。

新しいロイスさんは、デルコさんの後輩の様です。

そのロイスさんから私の剣の練習を手伝ってくれると言ってきました！

私ってばラッキーです！

やっぱり一人で素振りをしてても、感覚が掴めません。

物資を届けてくれる、週に1日、2時間程練習を見てくれるそうです。

一見頼りなさそうに見える人ですが、見かけで判断してはダメです！

良い人です！！

今日の所はロイスさんが構える剣への打ち込みでしたが、来週からはもっと本格的に教えてもらいます。

楽しみです。

お父さんを助ける事が出来るくらい強くなりたいです。

ソルムンド暦1777年9月12日

今日はお母さんにお料理を習いました。

本当はお料理なんて興味ないんです。

でも、お母さんに「料理が出来ないと、大人になった時に彼氏に嫌われるわよ」って言われました。

私は彼氏なんていらなんて言っただんですが……

「お父さんにも嫌われるわよ！」って……

ズルイです!!

そんな言い方されたら習わない訳いきません!

覚悟を決めてお料理です。

お母さん特製のハンバーグを習います。

何だかよく分からない食材を、切って、混ぜて、こねて、焼く。

簡単です!

審査員はドラキチです。

ドラキチは一口食べて気絶しました。

失礼な子です!!

「ドラキチは優しいわね……見た目で分かるのに、食べてくれたわよ」

本当失礼です!!

ソルムンド暦1777年9月13日

今日もお料理に挑戦です！

今日はホットケーキを焼きます。

お母さんはやる気マンマンなんですが……

もう諦めてくれないかな……

私はお母さんに言われた通り、何かの粉やミルクや卵を混ぜて焼く。途中、フライパンから盛大に炎が出ましたが問題ないです。

お母さんは「何でホットケーキでフランベするのよ！」って叫んでました……

フランベって何ですか？

さぁ出来ました。

見た目は昨日のハンバーグと変わらないけど、匂いはホットケーキです。

きっと美味しいはずですよ。

……でもドラきちが食べてくれません。

仕方ないから私が食べます。

勢い良く食べます！

そして勢い良く吐きました！

何でしょうこれ……

言葉に出来ない味……

ホットケーキの匂いのするゴムを焼いて、何気ない一撃を加えた感

じ……

お母さんの結論！

私に料理をさせてはいけない！

良いんです……もう、良いんです……

きとお父さんは優しいから、料理が出来なくても許してくれるはずです……

……嫌われちゃうかな？

ソルムンド暦1777年9月17日

今日はエンジヨ物資の入荷日です。

ロイドさんが来ました。

それとデルコさんも来てくれました。

私をお祭りに連れてってくださいます。

さらにデルコさんのお姉さんのマリソルさんと、お友達のナタリアさんも来ました。

一緒にお祭りに行ってくれるみたいです。

お母さんとマリソルさんは凄く親しいお友達の様です。

でもマリソルさんは私を見て「キャー！ リュカさんそっくり！！

持って帰りたい！！」って騒いでます。

私、ピンチですか！？

でもナタリアさんがチョップでツツコンでました。「落ち着け」って……

今日は剣のお師匠様が2人です。

とってもジュウジツした練習でした。

ロイドさんに聞いたら、やっぱりデルコさんって強いみたいです。

ラインハット内でもトップ10に入るらしいです。

お祭りは明後日なので今日は早寝をして、明日朝からアルカパに出発です。

大人だけだったら半日で移動できるけど、私が居るから時間がかかります。
早く大人になりたいです。

ソルムンド暦1777年9月18日

今日の夕方にアルカパへ着きました。

今晩は宿屋に泊まって、明日のお祭りに備えます！

アルカパは既にお祭りムードで、キラキラ輝いてました！

明日がとっても楽しみです！！

でも宿を1部屋しか確保できませんでした……

仕方ありません、アルカパ以外から大勢の人が訪れてますから……

マリソルさんがデルコさんに「ちょっと！ 美少女が3人も居るからって、変な事したら噛み千切るわよ！」って、デルコさんを脅してました。

でも何を噛み千切るんだろ？

ソルムンド暦1777年9月22日

私……疲れました……

この3日間、色々ありました。

日記を書く暇がないほど色々ありました……

疲れが取れたら、3日間の事を纏めて書きたいと思います。

でも今は休ませて……

ソルムンド暦1777年9月23日（ソルムンド暦1777年9月19日
日の出来事）

待ちに待ったお祭り当日！

私は朝早くから夕方まで、アルカパの町を全て回りお祭りを堪能しました。

至る所で行われている見せ物や出店、ラインハットの各地から集まった人々……

田舎者の私には全てが珍しく、面白い物ばかりで最高に幸せな時間でした。

しかしトラブルは夕方宿屋へ戻ってから起きました。

私達の部屋へ戻ると、閉めたはずの部屋の鍵が開いており、中に置いてあった荷物が全て盗まれたたんです！

お金とか貴重品は持ち歩いていたので、大損害にはならなかったのですが、私とデルコさんの剣と着替え、それとこの日記帳を盗まれてしまいました。

私達は直ぐにアルカパの町を警備している警備隊の詰め所に向かい、盗まれた荷物の搜索をお願いに向かいました。

でも「はぁ？ 宿屋から荷物が盗まれた？ ははは、この時期にはよくある事だ。安宿をとったアンタ等の落ち度だよ！ 諦めるんだな……」って言われました。

何ですかそれ！？

探そうともしてくれないのですか！？

わたし頭にきちゃいました。

でも私以上に怒ってたのはマリソルさんで、

「ちょっと！ この町の警備隊が治安の悪化を放置してどうすんのよ！？ 今すぐ私達の荷物を探して、犯人を逮捕しなさいよね！」

「部外者が簡単に言うな！ この町は祭りの所為で人々が溢れかえってるんだ！ 喧嘩や痴漢騒ぎ、器物破損に詐欺・恐喝など……我々だけでそれに対応しなければならぬのに、お前等の落ち度で盗まれた物などに構ってられるか！ 他の懸案を処理しているついでに、盗まれた物を見つけたら取り返しておいてやる！ だから大人しくしている！」

「あ、アンタ達……今言った事後悔するわよ！ ヘンリー様に言いつけてやるんだからね！」

「ふん！ お前みたいなたん舎娘が、ヘンリー兄王陛下と知己なわけないだろ！ くだらん脅しはやめろ！」

「見てなさい……後悔させてやるからね！」

この時のマリソルさんの気迫が凄すぎて、何も言えませんでした…

…

でも……いくらラインハットに住んでいて、弟さんが兵士をしているからって、簡単に王様とかには直訴出来ないと思います……それとも何か伝手があるのかな？

仕方ないので渋々宿屋へ帰ろうと歩いていると、道の向こうから私の服を着ている女の子が居るではありませんか！

ダッシュで捕まえてデルコさんと共に詰問です！

すると女の子は泣きながら話してくれました……

アルカパから北に行った所に、レヌール城と言う廃城があり、其処を根城に盗人達が居るそうです。

私は武器と日記帳さえ戻れば文句はないので、私の服を盗人達から買った女の子は離してあげました。

怖い思いをさせちゃってごめんね。

それから直ぐに私達は簡単な旅の準備を買い込み、レヌール城へと向かいます。

携行食と薬草など……それと銅の剣を2本。

レヌール城へは2時間ほどで到着しました……

辺りは暗くなり、私は直ぐにでも乗り込みたかったのですが、デルコさんが深夜になるまで待機しようと言い、私達は森の中で仮眠をとる事に……

夜が明ける前の最も暗く、皆が寝静まる時に、忍び込んで奪い返すつもりのです。

私も5時間ほど眠る事が出来、日中の疲れを回復する事が出来ました。

ソルムンド暦1777年9月23日（ソルムンド暦1777年9月20日の出来事）

あと1時間もすれば夜が明ける頃、私達はコッソリ裏口からレヌール城へと進入です。

城の裏手から梯子を登り、最上階へ到着……
物音を立てない様に内部を搜索……

すると、大きめの部屋に人の気配が複数……20人くらいは居そうですが、どうやら眠っている様子です。

デルコさんが気配を消しその部屋を探すと……ありました！
私達の荷物がありました！！

バレる前に撤退しようと思ったのですが、見張り当番の人が居たらしく、部屋の出口で鉢合わせ！！

「な、何だお前等！！」
かなりの大声に、寝ていたみんなが起きちゃいました。

直ぐさま部屋の松明等に火を灯され、私達の姿が晒されます。
同時にさっきまで寝ていた盗人さん達の姿も露わになりました。

そして驚きました！
子供ばかりなんです！

6歳の私が言うのも何ですが、大半が私とあまり変わらない年頃の子達なんです。

私達と鉢合わせした見張り当番さんも12・3歳ぐら이다し、部屋

の中で一番の年長者らしき人も、デルコさんより年下なのは確かです！

親らしき人物が見あたりませんが……どういう事でしょう？

私は戸惑っていたのですけど、5人ほどの年長者組が私達の存在に殺気だって襲いかかってきました。

でも足の運びも、間合いの取り方もダメダメで、プロの兵士であるデルコさんの相手ではありません。

一瞬で撃退され、持っていた武器を取り上げてしまいました。

しかも1人も死んでませんよ！

さて見事（？）盗人さん達を捕らえた私達は、何故この様な事を行っているのかを問いただしました。

そして驚きの事実を聞く事に！

ここに居る子供達（盗人さんも含めて）は、かつてアルカパの孤児院で暮らしていたみたいなのですが、ラインハットの動乱以降、経営者が私腹を肥やす事に目覚めてしまい、国から補助金を取るだけ取って、孤児達を蔑ろにしたそうです。

それだけでも許せないのに補助金が出た途端、孤児達を奴隷商人へ売り払いお金に換えてると言うのです！！

……で、彼等はそんな酷い所から逃げ出し、このレヌール城で身を寄せ合い生きて居ると言うワケなのです！

だから盗みなどを行い、生きる努力をしてたんです。

でも……泥棒はダメですよ……やっぱりダメですよ！

何とかならない物なのかと、私はデルコさんやマリソルさんに相談します。

私には何の力もありません……こんなに無力が悔しいモノなんて……

「よし！ ヘンリー様に直訴しよう！」

「そうね……ヘンリー様なら、こんな状況を放ってはおかないわ！

……リュカさんが居れば、もっと頼りになったのに……」

やっぱりお父さんは、こう言う時に頼りになる人なのですね！

格好いいです！ 会いたいです！

でも疑問です。

そんなに簡単に、兄王陛下様にお目通りって出来るのですか？

盗人……失礼、孤児さん達も疑問に思ってますよ。

「私達も孤児なのよ！ ヘンリー様達に育ててもらった様なモノなのよ」

そうマリソルさんが優しく語ってくれました。

ならきっと大丈夫です！

取り敢えず皆さんを連れてサンタローズへ行く事になりました。

どうしてかと言うと……

アルカパの警備隊は信用出来ない（ムカつく byマリソル）と言う事だそうです。

もしかしたら『盗人を捕まえた』と自分の手柄にして、彼等を罰してしまうかもしれません！

だから、ここから直接サンタローズに行き彼等を保護して、その上

でデルコさんがラインハットへ戻り、ヘンリー様に直訴するつもりです。

そうと決まれば、善は急げです。

私も3歳くらいの女の子の手を引き、サンタローズへ大移動！

私はもう慣れましたが、慣れない子達にはサンタローズへの道のは厳しいです。

私やデルコさん達だけならば、この日の夕方にはサンタローズに着いていたでしょうが、私より小さな子供が居る状況じゃムリです。

途中、枯れ木を拾い集めて野宿です。

携帯食は人数分も無いので、小川で魚を捕りみんなに分けました。

デルコさんが猪を捕ってきてくれたので、食事は何とかまりました。

ソルムンド暦1777年9月23日(ソルムンド暦1777年9月21
日の出来事)

この日も朝から大移動。

皆さんとお喋りしてみると、良い人ばかり！

泥棒はいけない事だと解っているのです……

でも泥棒しないと生きていけない……そんな世の中、間違ってますよ！

お父さんが居れば、きっとそんな事にはなってなかったと思います！

さて、何とかお昼過ぎにはサンタローズへ到着。

女の子は私の家……つまり教会で寝泊まりを……

男の子は宿屋で寝泊まりしてもらう事に。

サンタローズじゃ教会と宿屋ぐらいしか大きめの建物は無いのです。必然的にこうなります。

しかしベッドの数は圧倒的に足りません。

だから申し訳ないけど床で寝てもらう事になるのですが、せめて布団だけでも揃えないと……

私もお母さんも……マリソルさんやナタリアさんまでもがサンタローズを走り回り、みんなの布団を確保しました！

これでなんとか夜を迎えられそうですね。

孤児の皆さんが、教会の床で雑魚寝をしているのに、私だけ柔らかなベッドで眠るなんて出来ませんよね！？

だから私も、皆さんと一緒に礼拝堂の床で寝る事にしました。

デルコさんが急いでラインハットに戻り、ヘンリー様に直訴をすれば、直ぐに彼等を迎えに来てくれるはずです！

だから私もそれまではベッドじゃ寝ません。………ちょっとの辛抱ですから。

そうしたらお母さんまでもが礼拝堂の床で寝ると言い出しました！
しかもマリソルさんやナタリアさんまでも！

何だか楽しくなくなっちゃいました。

だから私……「女の子だけで、一緒に雑魚寝するのって楽しいですね！」って言ったんです。

そうしたらマリソルさんがお母さんを見て……「女の『子』？」って言うんですよ！

もう……酷いと思いませんか？

お母さんだって『女の子』ですよ！

そう言ったらお母さんが……「いいのよりユリユ……アナタのお父さんは分かってくれるから！　そう言う酷い事を言う子は、リユー君に嫌われるのだから！」って！

言われたマリソルさんは……「いやくん！　リユカさんに嫌われたくない！！」って大騒ぎ！

そこからお父さんの話で盛り上がりました！

お母さんとマリソルさんが、お父さんの逸話を色々話してくれるんです。

私だけじゃなく、他の女の子達も興味津々！

うん。やっぱりお父さんは格好いい！

ソルムンド暦1777年9月26日

今日もジュウジツした1日です。

村民より多い難民孤児さん達を受け入れ、サンタローズは賑わって
ます。

皆さん、畑仕事を手伝ったり、村の修復を手伝ったりして頑張っ
ます。

私も剣術稽古の相手をしてもらって助かります！

1番お兄さんのマックさんが「君は本当に強いんだね！ 驚いたよ」
って言って褒めてくれました。

でも慢心してはいけません！

これは『そのくらいの歳の女の子にしては……』って意味です！
当然です。

同い年の女の子に負ける気はしません！

でも私の目標は、そんな低い所ありません。

もっと強くなって、お父さんを助けられる様になりたいのです！
勿論焦るつもりはありません。

まだ私は6歳です。

身体もこれから成長していきます。

まだまだこれからなのです！

ソルムンド暦1777年10月2日

今日デルコさんが大勢の人を連れてサンタローズに訪れました。

人数は多いですが、兵士さんは5人くらいで、殆どが孤児施設の人達のようなのです。

どうやらお別れの時が来たようです……

私としてはサンタローズに住んで欲しいのですが、人数も多いし、きちんとした教育を受けられる施設のあるラインハット方が良いと言う事なのです。

最初は色々盗まれて怒っちゃったけど、実際は皆さん良い人ばかりなので、ちょっと残念ですね。

何より剣術稽古の相手をしてくれたのが助かりました！

やっぱり打ち込む相手が居る方が、強くなっている気がしますから……

それからデルコさんに聞いた話では、アルカパの方には調査団を派遣し、徹底的に調べるといふ事です。

うん。それが良いと思います！

生きる為に、悪い事と分かっているでも盗みをするしか無い状況なんて、間違ってますよ！

でも大丈夫なのかな？

アルカパにいた警備の兵士さん達みたいなのが調査したんじゃ、結局見て見ぬふりをしちゃうなんて事も……

そうデルコさんに言ったら、

「その点は大丈夫だよ。調査団を率いているのは、兵士団総長のヨシユアさんだから！ ヨシユアさんはヘンリー兄王陛下の奥様……マリア様のお兄さんなんだ！ しかもラインハットの動乱時に、リユカさんと共にラインハットを救った人でもあるんだ！ 100%信頼出来る人だよ」

との事です！

何だか凄く偉い人で、しかもお父さんの事を知っている人みたいですよ。

是非会ってみたかったですねえ。

お父さんの事を聞いてみたかったですねえ。

あ、蛇足ですが……

デルコさんが今回の件で出世したみたいです。

一緒に来てた兵士さんに『小隊長！』って、敬礼されました。

どのくらい偉いのかは分かりませんが、凄い事なんだと思います。

だから「おめでとうございます」って言うっておきました。

ソルムンド暦1777年10月4日

今日マックさんたちが全員ラインハットに出立しました。

寂しくて泣きそうになったけど、デルコさんがいっぱい稽古をつけてくれたので、泣かずに済みました。

そのデルコさんは数日泊まって行く様で、その間稽古をつけてくれるみたいです。

従ってその間もマリソルさんやナタリアさんはサンタローズに留まります。

デルコさんが言うには、マリソルさんはアルカパの警備隊にご立腹の様で、調査隊派遣前にラインハットへ帰したら、ある事無い事言い触らしそうだったのでサンタローズに残したそうです。

いくら何でもそんな事しないと思うのですが……弟さんが言うので……

まあともかく……数日はサンタローズに留まるので、私の寂しさも紛れると思います。

よし！

この機会に、いっぱい剣の稽古をつけてもらっちゃおう！

ソルムンド暦1777年10月9日

今日、ショッキングな事が判明しました！

アルカパを調査している兵士さんの一隊が、ラインハットに引き上げられるらしく、一旦サンタローズに立ち寄りました。

デルコさん・マリソルさん・ナタリアさんは、その人達と一緒にラインハットへ帰るそうです。

寂しいですが仕方ないですよね！

きっと直ぐに再会出来ると思うので、笑顔でお別れします。

村の入口まで、お母さんと一緒にお見送りに……

そこで騒ぎが起きました！

アルカパへの調査隊に加わっていた、1人の兵士さんを見てお母さんが悲鳴を上げ震えながら叫んだんです！

「あの人、サンタローズを襲い、私を襲った男よ！」

何と！？

そんな酷い人物が、普通に兵士さん続けているなんて！？

その兵士さんは一生懸命言い訳をしました。

「あの時は新兵で逆らえなかったんだ」とか「今では本当に悪い事をしたと反省している」とか……

反省するのは当たり前です！

罪を犯したのに、罰を受けないのはダメですよ！

だからそう言ったんです……そうしたら「今は真面目にやっ

家族もいる……だから許して欲しい……大事おわごとにしないで欲しい……」
って！

でもお母さんに酷い事をしたのは許せません！

そうしたらお母さんが「大事おわごとにしてほしく無かったら、家族に全部打ち明けて下さい！そして家族をサンタローズへ連れてきて下さい！如何に酷い事をしたのかを、家族に知らせて下さい！そのくらいの罰は受けるべきです！」って……

そのまま踵を返して帰っちゃいました。

私も頭にきてたので、お母さんと一緒に帰ってしまいました。

今にして思えば、マリソルさん達にお別れの挨拶をし忘れました。

でもあの時はそんな事まで考えられませんでした。

お手紙を書いて謝らないと……

ソルムンド暦1777年10月16日

アルカパの孤児さん達騒動から1週間が経過し、サンタローズは平和その物です。

しかし私には、ちょっとした悩み事があります。

どんな事かと言うと……

ロイドさんの事なのです。

あまり人様の事を悪くは言いたく無いのですが……

その……なんか……ヤです！

剣術稽古の相手をしてくれるのはありがたいのですが、指導する時に体に触ってくるんですよ！

デルコさんはそんな事無かったですよ！

最初の頃は気にしない様にしてました……

デルコさんと違って、口下手なロイドさんは、直接体に指導しているのかもしれない……そう思って気にしない様にしてたんです。

今日も「もう少し腰に力を入れた方がいい」と言い、腰に触れてきました……が、気付けばお尻を触ってるんですよ！

思わず身体を捻って逃げたら「あ、ゴメン……マント越しだから分らなかったよ」って言ってました。

……確かに分かりづらいかもしれませんがね。

でもそれだけではないんですよ！

足場の悪い場所での練習と称し、勾配のある場所で剣を振るわされるのですが、ロイドさんは何時も下から見ただけなんです。パンツが見えちゃうんですよ！

もしかしてロイドさんって……
どうしよう？

お母さんには相談出来ません。

先日の件で、ラインハットの兵士さんに不信感を持ってしまいましたから、下手に相談すると大事になるかもしれません……
私の勘違いという事だってありますから……

6歳の女の子に、全く興味が無いからこそ、ああいった対応をしてしまうのかもしれませんがね？

本人に聞くわけにもいかないし……

仮に聞いたとして、『はい、私はロリコンです』って言われたら最悪ですし……

違ったら違ったらで、大変失礼な事を思っているわけですから……

ああ……ちょっとユウウツです。

ソルムンド暦1777年10月23日

1週間、悩み続けましたが有効な解決法が見いだせず、『お腹が痛い』と嘔吐いて、今日のお稽古は休んでしまいました……私……最低です……

でもでも、ロイドさんに対して一方的とは言え疑惑がある以上、以前の様に接する事なんか出来ませんよ！

これは早めにデルコさんへ相談しないと……

でもどうやって相談しましょうか？

1度疑ってしまうと、何もかも信じられなくなります……

手紙を書こうにも、途中でロイドさんに託さねばなりません……

私の行動に疑問を持ち、手紙を勝手に読まれたらと思うと……

どうか理由を作ってラインハットへ行ける様にしないと！

さて、その方法ですが……武器屋のオリバーさんに、ラインハットへ行く用事が無いか尋ねてみましょう！

もしあれば、それに便乗させてもらい、ラインハットのデルコさんの元へ行けるでしょうし。

仮にデルコさんへ会えなくても、ロイドさん経由ではなく手紙を渡す事が出来るはず。

では、私がラインハットへ行きたい理由付けですが……

お母さんに本当の事を言ったら、間違いなく発狂しそうなので、それだけはダメですね！

マックさん（アルカパの元孤児）達に会いに行きたい……そしてラ
インハットという大都会を、目の当たりにしたい！って理由で押し
通しましょう！

多少苦しいですが、反対しすぎると勝手に1人で行きかねないって
思わせましょう。

そうすれば渋々でも許可をくれるはずですよ。

ソルムンド暦1777年10月24日

今日、武器屋のオリバーさんに相談しました。

オリバーさん的には、どうしてもラインハットへ行かねばならない理由は無いけど、私が行きたいのならば同行してくれると言ってくれました。

これは大変心強い！

外堀を埋めたところでお母さんに相談です。

意を決して話を切り出したら……

「あら、それは良い事ね。見聞を広める為に行ってらっしゃい」と、思っていた程反対はされませんでした。

うくん……

意外に自由度の高い家庭だったとは知りませんでした。

出発は明後日の早朝です。

サンタローズからラインハットまでは、大人の足で3日程の距離ですが、子供の私には5日は掛かると思われます。

早く大人になりたいですねえ……

ソルムンド暦1777年10月26日

バレてるって知りませんでした。

今日は朝からラインハットに向けてオリバーさんと出立しました。兵士のデルコさんに比べれば、まだまだ頼りないですけど、流石は大人ですね。

モンスターが現れても容易く倒してくれます。

私も協力しようと思ったんですが、マントの中にドラきちを隠したままだったので、巧く動けず傍観してました。

でも「リュリユちゃんも修行の一環として戦いたいんだろ？ だったらドラキーを隠しておくのはやめな。もう知ってるぜ……そいつが無害なものな」と、ドラきちの事を指摘されました。

何でバレちゃったんでしょうか？

村の中じゃ何時もマントの中に入れてたのに……

まさかお母さんが喋っちゃったんでしょうか？

でも誰もモンスターの存在に驚いた様子はありませんでしたね。

謎です……

やっぱり大人って言うのは凄いという事でしょうかね？

ソルムンド暦1777年10月30日

大きなラインハット川に到着しました。

凄く大きいです！　そして流れが速い……

昔はこの川を渡る為に、何艘もの渡し船があったのですが、今では一艘もありません。

何故なら、この川を潜る様にトンネルが掘られており、そこを関所として兵士さん達が配備されているからです。

この関所にはトムさんという兵士さんが隊長さんとして配備されています。

私は、自分が怪しい者じゃないことを示そうと思い、トムさんに笑顔で挨拶をしたんです。

そうしたら「君は……リュカ様に関係がある方なのかい？」と聞かれました。

「兵士さんは私のお父さんをご存じなのですか!？」

そう聞き返したら「尊敬するヘンリー陛下の大親友。ラインハットの動乱を沈めに、この関所を通過しようとしたリュカ様を、お通したのは自分なんですよ!」と、多少……いや、かなり興奮気味に話してくれました。

お父さんのことを色々話してくれるのは嬉しいですが、ラインハットに行きたいから足止めされるのは困りものです。

まあそれだけお父さんは凄いて事ですかね？

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
http://www.akatsuki-novels.com/stories/index/novel_id~5292

リュリュちゃん日記

2014年11月09日 00時00分発行